

2021年2月14～20日に釧路水産試験場試験調査船「北辰丸」で噴火湾環境調査を実施しました。噴火湾周辺海域の水温・塩分の観測結果をお知らせします。

(函館水産試験場のHPからもご覧頂けます <http://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/hakodate/>)

【水温の鉛直分布】

噴火湾内および湾外では大気からの冷却により鉛直混合が進み、水温は海面から海底までほぼ一様になっていました。

調査海域の水温は全層で4℃前後で、平年と比較するとほぼ同じか1℃前後高くなっていました。

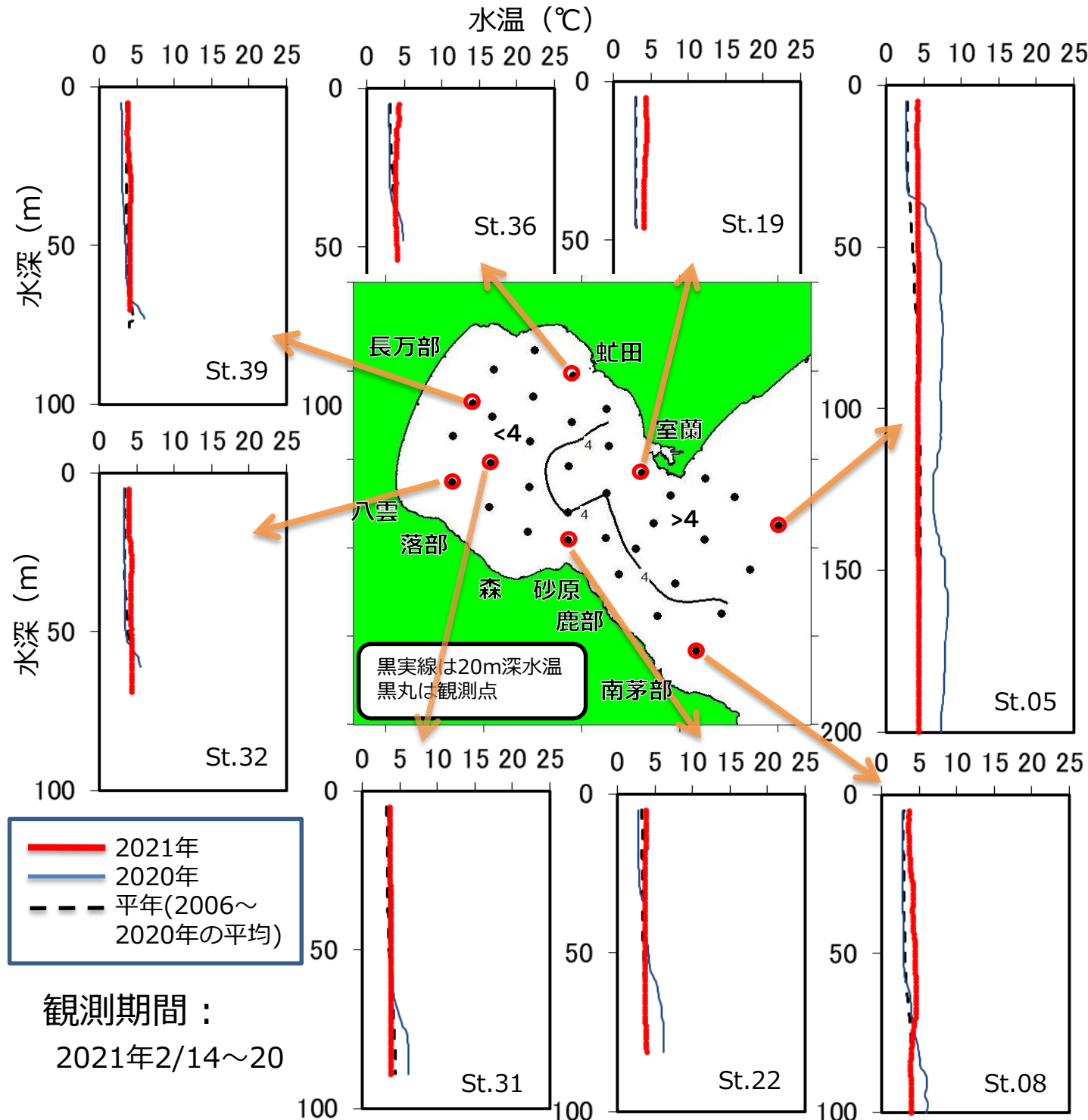


図1 噴火湾各地先の水温の鉛直分布と深度20mにおける水温の水平分布

【水温，塩分の水平分布】

調査海域の20m深の水温は4℃前後，塩分は33.4前後となっていました。例年2月頃には，低温で低塩分な親潮系水（水温3℃以下，塩分33.3以下）が噴火湾外から湾内の表層に流入しますが，調査を実施した2月中旬時点ではまだ分布していませんでした。

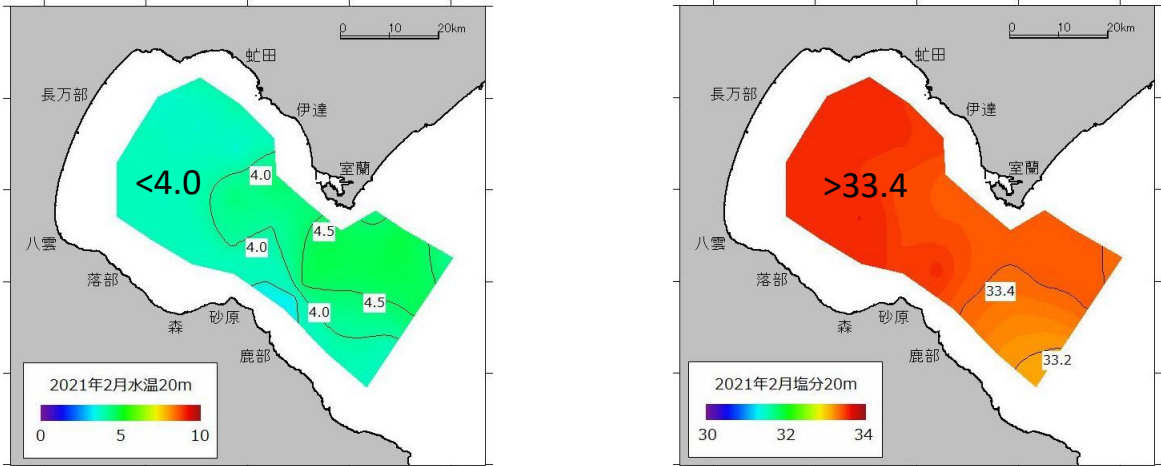


図2 20m深における水温（左）と塩分（右）の水平分布（2021年2月）

【噴火湾外の親潮系水の分布状況】

上述した親潮系水は，冬期に道東太平洋から噴火湾方面に流れてきます。2021年2月の襟裳岬以西の水温と塩分の水平分布を見ると，親潮系水は浦河沖に留まっています。前年同期（図3の下図）には既に噴火湾内に分布していたので，今年は噴火湾への流入が遅れているようです。

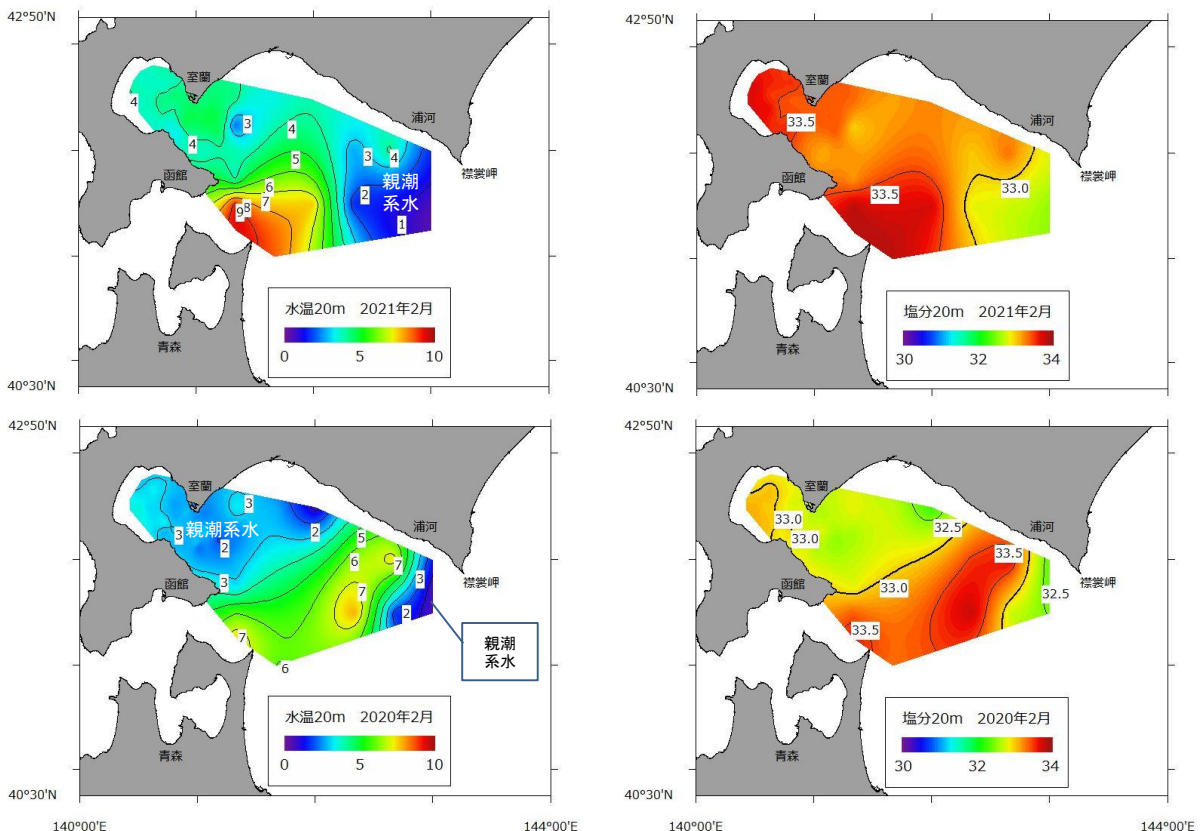


図3 襟裳岬以西における20m深の水温と塩分の水平分布（上：2021年2月，下：2020年2月）
（資料：北辰丸による定期海洋観測結果）